



マネックスグループ 取締役兼代表執行役COO・CEO兼CFO
マネックス証券 代表取締役社長

「私はごく普通の人間なんですよ」。そう言いながら微笑むのは、マネックスグループの代表執行役COO・CEO兼CFOで、マネックス証券の社長を務める清明祐子さん。
「機会をいただいたら、できる限りありがたく受け取り、失敗することがあっても、皆に助けをもらいながらやっている」と。
3年前の4月に、国内インターネット專業証券で初の女性社長となった清明さん。41歳という若さだった。カリスマ創業者といわれる松本大前社長の後任というプレッシャーにも、ひるむことなく全力で突き進んできた。
証券業の経験のなさを逆に強みに換え、新たな世界を切り開き、この4月からはマネックスグループにおいても重責を担う清明さん。常に笑顔を絶やさず、明るくポジティブで、パワーが、しなやか。
今日まで培ってきた実力とその人柄は、マネックスグループの活動を通して、人々の生きがいある人生の創造に大いに生かされるであろう。

清明祐子

新しい価値を生み出し 常に一歩先の未来をつくる

「MONEXとはMONEYのYを一文字進め、一歩先の未来の金融をデザインしたいという考えで命名されました」。こう、企業理念に創業の想いを込めるマネックスグループ。証券業から始まった同社だが、いまや金融にとどまらず、人々の人生に寄り添い、有意義な生き方の手助けとなる存在となるべく、事業拡大を図っている。

未経験から突然の社長指名 異職種での経験を生かす

伊藤 清明さんは、2019年4月にマネックス証券の社長に抜擢され、話題となりました。また、これまでの実績が評価され、今年の4月には、マネックスグループの代表執行役COO・CEO兼CFOという重責を担われることになりました。

まずは、社会人になられてから今日までの道のりをお話いただけますでしょうか。

清明 新卒で三和銀行（現三菱UFJ銀行）に入行しました。大阪出身で大学も関西でしたので、大阪の梅田支店に配属され法人営業を3年間やりました。人事部付として後輩の採用にも携わった後、東京に移り、2004

年からは事業金融部（現ストラクチャードファイナンス部）に所属していました。

その後、銀行を退職し、2006年12月からMKSパートナーズというプライベートエグゼクティブに移りました。そんな中、2008年秋にリーマンショックが起きたのです。ファンドは、銀行から借入れをしてレバレッジをかけて企業を買収するということを業務としています。当時は金融機関の機能が止まってしまい、厳しい状況となりました。そのため、当時のMKSパートナーズの代表が会社を閉めると決め、やむなく転職することになってしまいました。その際、縁があり、2009年2月にマネックスのグループ会社に入社します。

振り返れば銀行では、M&Aのアドバイザーや企業再生のファイナンスなど、少し特

殊なファイナンスを手掛けていました。一方で、その後のMKSパートナーズはまさに企業買収、売却、M&Aでしたから、これらの経験が生きるような、マネックスの中でも社員5人ぐらいの本場に小さいM&Aアドバイザーの「マネックス・ハンブレット」という会社に就職しました。

私にとってはファンドの仕事を2年で強制退場させられた形であり、自分から辞めたかったわけではなかったので、ファンドの仕事には思い残すことが多くありました。ですからいったん転職はするけれども、どこかでもう1回、ファンド業界に戻ろうと思っていました。マネックスに入って2年経った頃、実は転職活動をしてオファーも持っていて、さあいいよ辞めると伝えよう、というタイミングで、その小さい会社の社長をやってく